る自覚と責任を

遭う人や機会が急に増えるかがえる。

未成年者が親の同意なした場合、不当な内容かどかわらず、後から取り消を認めている。被害の救とともに、悪質な業者をから遠ざける予防的な役してきた。

高校卒業時と重なる。進で初めて親元を離れ、希を抱いて新生活を始める。有効な対策を打ち出さ、今まで以上に消費者被る恐れがある。

齢の引き下げは、15年前検討が始まり、4年前にた。法案可決の際、参院や経験の不足につけ込んによる契約は取り消せる権を明記し、2年以内の法めている。

準備期間があったにもかかわらず、対策は進んでいない。

政府は、消費者契約法を改定し、18、19歳でも契約を取り消せる権利を盛り込んだが、恋愛感情を利用した悪質商法などに限った。ここにきて、アダルトビデオへの出演を強要された場合に取り消し権が行使できるよう求める声が高まり、慌てて議論している。

カードローンやクレジットカードの契約は、業界の指針や自主規制に任せているのが実情だ。

国や自治体は、業界とともに監視を強め、実態の把握に努める必要がある。学校教育などを通して、若者に知識や対処法を身に付けてもらうことも欠かせない。

18歳になったからと成人の自覚と責任を求めるだけでは、若者の社会参加にもつながらない。その入り口で人生につまずかないよう、まずは大人が若者を育てる自覚を持ち、責任を負うべきだ。

ニア問題 判断材料が大切

り発生土を活用する域への安全面での危て、「必要かつ十分関係する地元住民ていたかどうかといだと思います。国や、使い勝手の良い平できき、機械化を進めというようなメリットれます。しかし、熱たような土石流の発るというリスクについて、どれだけ説明されているでしょうか。

行政から判断を「丸投げ」され、その責任を該当する住民自らが取らされる前に、十分な判断材料が、賛成反対両方に与えられていたかどうかが大切だと考えます。その先に、地域での合意形成が図られるのではないでしょうか。

長野市　西沢　清文（無職・67）

視標 ロシア 沈黙と孤独の反体制市民

熊本学園大教授　太田 丈太郎

おおた・じょうたろう　1965年千葉県生まれ。東京外国語大スラブ系言語専攻修士課程修了。専門は20世紀ロシア文学・ロシア文化研究。著書に「イリーナさんというひと　ソ連という時間をさがして」など。

ロシアの友人たちが国外へ脱出し始めた。若い研究者で、2月末から3月初めにかけて続けて出国した。具体的な国名を書くのは控える。

ある友人が出国先に着いてみると、信じられないほど多くの同国人がいる。政治的な理由で出た人、徴兵を忌避した人、自分の零細なビジネスを守るために出た人、今後を悲観して子どもの将来のために出た人。

現地の人たちは彼らにとても好意的だというが、この先仕事のあてがあるわけではない。住宅の問題がある。子どもの幼稚園や学校の心配もある。毎日が際限ない行列にならぶことに費やされる。戦争の長期化とともに彼らが「亡命者」になる可能性が大だ。

◆　◆

一方でロシア国内の友人たちが心配だ。私の同僚たち、大学などに勤める研究者たちだ。2010年代の前半から、反政権デモに参加しつづけ、このたびのウクライナ侵攻に反対している。

多くのロシア人と同様、ウクライナに友人や家族がいる。おじや祖父がウクライナでナチスと戦ったことを誇りにしてきた。それが今や、ロシアがウクライナの破壊者になってしまった。

欧米の激しい反戦キャンペーン、ボイコットで身の置き所もない思いがある。その上、国内ではプーチン政権の「人質」になってしまった。沈黙を強いられ、孤独感を強めている。

プーチン政権は戦争で面目を保てれば、すぐ公然と彼らロシア国内の知識人・反体制市民への迫害キャンペーンを始める。過去の経緯から、またスターリン時代の事態に鑑みれば、火を見るよりも明らかだ。

国外では欧米のキャンペーンにたたかれ、国内ではいつ迫害されるかわからない彼らのことを思うと、胸が張り裂けそうだ。私の親友で恩人なのだ。いまのところネットは使えるようだが、いつ閉鎖されるかわからない。頻繁に連絡をとっているが、いつまで続くかわからない。

彼らも互いに支え合って、パニックにならぬよう努めて落ち着いている。それが、せめてもの救いだ。

◆　◆

私のようなロシア語関係者、日本に長く住むロシア人も反戦キャンペーンのただ中で居場所のない思いでいる。ましてやロシア国内の反体制派の友人たちがいかにつらい立場に置かれているか、察するにあまりある。

ウクライナ難民の問題が焦眉の急であることは言うまでもない。とはいえ大量のロシア難民と、ロシア国内の「人質」たちにも目を向けてほしい。ロシア国内の事態は急激に悪い方へ向かっている。かつてなく知識人・反体制市民への圧力が高まった。

百年前、大々的な知識人追放キャンペーンが行われ、多くのロシア文化人が故国を去った。1970年代にも、ソルジェニーツィンやブロツキーをはじめ、多くの知識人の国外追放・脱出が目立った。ロシア語話者の新しい「ディアスポラ」（民族離散）の波が押し寄せている。戦争は加害者側の国でも、人々に途方もない負荷をかける。

なんのためにスターリン時代の恐怖から教訓を得たのか。後になってからでは遅い。ロシアの同僚たちにさんざん世話になっておきながら、最悪の事態に手をこまねいているのでは、日本のロシア研究は終わってしまう。

世界平和を守るために

10代

今、ロシアとウクライナで戦争が起こっています。そのためウクライナの住宅地や病院、学校、幼稚園も被害にあっています。1歳半の子どもの命も奪われています。

そんなウクライナを、EUなどさまざまな国が支援しています。日本でも政府や企業、自治体による支援の動きが見られます。例えば、通信会社が国際電話を無料で提供し、ウクライナから離れて暮らしている人たちが、家族とコミュニケーションが取れるように動いています。また、緊急支援募金に多額の寄付が集まり、有名なアーティストや実業家も寄付しています。

このように日本や世界で平和のために、たくさんのことが行われていると知り、私は、自分にもできることは何かと考えました。今、私たちにできることはロシアとウクライナの戦争について正しい情報を知ること、寄付をすること、そして何よりもまず声を上げることだと思いました。

私はこれ以上、世界中の平和が脅かされるようなことが起きてはいけないと思います。だから私は、今できることを全力でしたいと思います。

下伊那郡　石原紗矢香（中学生・14）

一日一日を大事にする

10代

「まわるまわるよ　時代はまわる　喜び悲しみ繰り返し」という歌詞がある。振り返ってみると、時代とともにさまざまな物やことが移り変わっていっていると感じる。まさに、時代がまわっている。

特に近年の先進技術は、目覚ましく発展していると思う。例えば買い物をする時、会計はキャッシュレスや無人レジがあちこちで増えてきた。新型コロナの影響もあって、利用人数も増加している。しかし、レジが無人になると人手がいらなくなる。レジ以外にも無人になりつつある場所は少なくない。これも先進技術の発達だと思う。そして、時代の波に覆われつつある。

戦争や災害はどうだろう。月日とともにその記憶も流されていくが、その出来事を後世の人が忘れないように、心に刻んでもらうために、語り継いでくださる方たちもいる。私たちは、時代がまわっても時代とともに共存していかなければならない。

私はこのことから、過去にとらわれ過ぎるのは良くないけれど、それでも先のことばかり考えずに、一日一日を大事に生活をしていきたいと思った。

千曲市　湯原　凜（高校生・17）

やまびこ

成人年齢18歳に引き下げ
年金受給年齢は引き上げかな
―心配性
（下伊那郡・しぶ柿）

フェイクニュース拡散
やりにくいなあ…
―エープリルフール
（上水内郡・X）

投稿される方へ

「建設標」「響」「10代」は500字程度。匿名・仮名は原則認めません。
「やまびこ」は、はがきで愛称を付けてお送りください。
いずれも、原稿の返却には応じかねます。添削することがあります。採否の問い合わせには応じかねます。二重投稿はおやめください。
採用分には薄謝。信濃毎日新聞のデータベースにも収録します。
原稿・作品には、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記してください。問い合わせは☎026・236・3111へ。

郵送　〒380-8546 長野市南県町657
信濃毎日新聞「建設標」「響」「10代」「やまびこ」係
メール toukou@shinmai.co.jp　**ファクス** 026・236・3179